

一九一四年
一九一八年 世界大戦史 前篇

第一部

序説 大戦亂の由來

戦前の外交

交戦各國の内政開戦後一箇年間に於ける

交戦各國の經濟及び財政開戦後一年間に於ける

第二部

陸戦史（一九一四年八月以降一九一五年八月に至る陸戦の景況）

交戦各國の軍備及び動員

大戦經過一覽

海戦史（一九一四年八月以降一九一五年八月に至る海戦の景況）

世界大戦史の序

半宵兀然獨り夢より醒めて、頭を回らすに夜既に更け、寒氣深く骨に徹す。庭前の枯樹時に風に觸れて鳴り、四隣閑寂として遠く犬の吠ゆるを聞くのみ。衾を被いで再び眠らんとするに、神氣昂ぶり兩眼冴えてまた眠をなさず、困頓の餘枕を却て、雜念の浮ぶに任ずに、端なく默想の中に入り來れるは、近く五箇年の久しき人類の運命を脅威せる世界の大戦亂なり。

靜かに想ふに、戦亂の犠牲もまた大なるかな。幾百萬の生靈は屠られ、幾百里の沃野は焦土となり、國帑の空しく糜さるゝもの幾千億、國は亡び、君は貶けられ、生民の家を喪ひて饑渴に苦むもの實に幾千萬人なるを知らず。然れども翻つて他の方面に考察を回らせば、五箇年の大戦亂は或は政治外交に、或は經濟財政に、或は技術工藝に、或は戰略戰術に、